

★★★★★ 7 ★★★★★

新年会		2015年2月7日		土	17:00 ~ 19:00	
		植田町		ホテルミドリ		
富樫 先生	柳田 常雄 1	鈴木 正吉 1	酒井昇 5	小林 仁 5		
嵐 繁雄 6	志賀 利光 7	福富 大祐 7	川内 一浩 8	平子 恵俊 9		
小野真人 10	千葉 良司 10	渡辺 久 11	高原 典宏 14	鈴木 忍 18		
四家 康正 21	橋本 浩喜 25	佐藤 則之 31				



1回生の2人を筆頭に31回生まで幅広い年代が集まり、また富樫先生も参加していただき18名の会員で新年会が行われました。植田駅から徒歩5分ほどにあるホテルミドリの1階の宴会場に座卓が並べられ、宴会場の正面には「勿工建築科OB会新年会」の横断幕が掲げられていました。ホテルにより作成していただいたものです。高原事務局長の進行で行われました。福富会長があいさつをして、事務局長からは、今年度の行事日程を伝え会員の協力を呼びかけました。乾杯を富樫先生がしましたが、その中で先生は2月9日で84歳になりますと言っておられました。元気な先生の乾杯の掛け声で宴がはじまりました。1回生は今年70歳になります。1回生の話を聞くと2人とも現役で仕事をしているようです。週5日出勤しています。「仕事を持っている生活はいいね」と言っていました。元気な話題をもう一つ。今年で6回目を迎えるいわきサンシャインマラソン。渡辺久さんが3回目の42kmコース出場を翌日に控えて新年会に参加しています。この大会のボランティア活動を行う予定の佐藤則之さんも新年会に参加しています。鍋料理を囲みホテルからは素敵なお酒をプレゼントしていただき、和んだ雰囲気の中行われました。また恒例となった勿工校歌と建築科応援歌を参加者全員立上って合唱しました。最後に三々七拍子の掛け声と集合写真を撮り新年会は無事終了しました。

★★★★★ 8 ★★★★★

設計コンペ審査会		2015年2月14日		土	10:00 ~ 12:00	
		ノア・アーキテツ				
嵐 繁雄 6	福富 大祐 7	千葉 良司 10	高原 典宏 14	佐藤 則之 31		



2月14日の日曜日に福富会長の事務所で審査会が行われた。審査前にコーヒーを飲みながら雑談をした。飲み終えていよいよ審査会が始まった。テーブルに作品を載せると2枚分を広げるのが精いっぱいである。今年の卒業生は36名を予定している。実際に揃っている数は34名分だった。最初の作業として、全体をバラバラめくって仕上がりを確認した。次は、入選者10名を選出するために、1枚めくりながら入選者として残すかどうかを判断した。残したいものに付箋を貼った。34枚見終わると付箋を付けたものが14名いた。それを更に10名に絞る作業に入った。そして10名を選出すると次は、最優秀賞、優秀賞、佳作、特別賞を区別していく。蛭田智之君が最優秀賞に選出された。彼は市民会館を設計した。建物のスケールが大きい。客席にたくさんの固定席を配置して楽屋ゾーンを半円形の平面にした。客席ホールは天井が高く大空間を確保した。屋根をR形に一体とした。また模型を作成して写真を張り付けてあるが、この模型も完成度が高い。コンセプトのフォントが面白かつ

た。初めて見るフォントだった。文字自体にも着色している。デザインに興味がある生徒であることを感じさせた。蛭田君は大学へ進み更に建築を学ぶことが決まっている。そして10名の入選者が決まった。

★★★★★ 9 ★★★★★

設計コンペ表彰式		2015年2月28日		土	11:30 ~ 13:00	
入会式・昼食会		勿工新校舎会議室				
福富 大祐 7	高原 典宏 14	渡辺久 11				



第20回卒業設計コンペ表彰式が2月28日に行われた。OBの参加者は福富会長、高原事務局長、渡辺久副会長の3人。場所は新校舎の会議室を借りた。事前に寺島科長が段取りをしてくれた。大きめのテーブルが2列に並べられ、上座にOB生が3名座る。後ろの席には先生方が6名座る。その間に生徒33名が座った。今年の卒業生は36名。そのうち3名が欠席。会長の挨拶の後、コンペの表彰式を行い、入会式を行った。そして今年初めのことになるが、卒業生、先生、OB生の交流のための昼食会が催された。OB会が弁当とお茶を46名分準備した。弁当は500円程度のものだ。食事をしている間は、それぞれおしゃべりをしながら、交流もなく行われたが、その後、11回生の渡辺久さんがクレハ錦建設で働いている様子を生徒たちに話をした。生徒たちは真剣に耳を傾けていた。全ての生徒が進路を決め、新しい生活への期待と不安を抱いているこの時期ならではのタイミングだったようだ。先生たちには伝えられない内容なのかもしれない。この初めての交流を大事にして、今後も学校とOB会を連携して交流を維持していきたい。交流会のイメージが分かってきたところで来年は更に充実したものを考えていきたい。

あの日の登山計画は御嶽山

木曾御嶽山噴火
とうほくトレッキング代表
佐藤一夫（5回生）



平成26年9月27日昼近く、御嶽山が突然噴火し、57名の登山者が山頂付近で亡くなりました。まだ多数の方が不明になっています。御嶽山は日本百名山に選定され、比較的容易に登ることのできる3km峰として人気のある山です。紅葉シーズンの土曜日でもあり、多くの登山者が山頂付近で楽しい時間を過ごしていたでしょう。この御嶽山に、私の主催する登山ガイド事務所「とうほくトレッキング」がこの27日に登山することになっておりました。ところが、前泊予定のホテルから、希望の部屋が確保できない旨の連絡があり、それならば27日は、翌日に予定していた恵那山に登し、御嶽山は28日に変更し登山することにしました。恵那山から下山したのは午後2時ころ、携帯電話で御嶽山の噴火を知りました。もちろん御嶽山には向かわず、福島に戻ることになりました。途中の高速道SAで、テレビ報道の噴火の映像

を見て、とんでもないことが起きたな、予定の日程で登山していれば、あの噴煙の中に巻き込まれており、今ここにはいなかったなと、不思議な感覚でした。ガイド事務所を開設して今年で10年目、日本全国の山岳に多くの方々を案内してきました。登山という行為は下界と違い、多くの困難な条件を克服し、山岳という自然を楽しむ行為です。私たちガイドはその登山者を安全に山頂へ、そして下山へと案内する業務を職としております。これまで、何度か事故等の対応をしてまいりましたが、今回のような火山の噴火というのは、想像もしていませんでした。しかし、日本は火山国であり、多くの山は火山であることを再認識した次第です。この何年か、国内は異常気象、頻発する地震、そして火山の噴火と心配です。しかし、山岳ガイドは山に登っていくらの職人、このような困難があるからこそ、私の活躍するチャンスが増えたとプラス思考に転じ、来期も多くの方に楽しんでいただける、ツアー企画を練り上げています。皆様もどうか一度当社のツアーへご参加ください。イギリスの登山家マロリー「なぜ山に登るのか、そこに山があるからさ」。(平成26年冬記す)

この記事を読んで(10回生千葉良司)佐藤一夫さんの原稿が届いた。御嶽山の噴火。たった865文字の原稿を読み終えるまでに、喉が詰まり、鼻をすすり、目がうるんだ。きわどい瞬間を通過して、そして今生きている。今生きているのが奇跡。神の導き。幸運。そして懲りない先輩、佐藤一夫さんだ。これだけの大惨事が勃発してもなお、登山したいと言うユーザーがいれば企画する。御嶽山が噴火しても、自分だけは惨事に遭わないだろうという気持ちがどこかにある。日本中のどの山も噴火が起きても不思議ではない。そう報道されながらも、登山者は減ることが無い。御嶽山は暫くの間登山者はいないだろうと思う。

7回生同級会



2015年2月21日(土)、18時から7回生の同級会が催されました。場所は、一泊で照島の小名浜オーシャンホテル&ゴルフクラブでした。担任の富樫先生と西山先生をお迎えし、宴会前に記念撮影をしましたが写真1の21名と、撮影に間に合わなかった大川原正雄君(写真2右端)と佐川旭君(写真3)も加えて総勢23名の参加でした。幹事の志賀利光君の手配でコンパニオン6名も付き、お代官様宴会となりました。約20年ぶりの同級会ということで、横浜、千葉、栃木、仙台、その他市外者も駆けつけ、賑やかで楽しい一夜となりました。今年、63歳から65歳の同輩ですから、すでにリタイヤして新たに新境地の生活をしている人やまだまだ現役で頑張っている人など、加えて子どもや孫のことなど、さらに東日本大震災のときのそれぞれの体験話など、話題が尽きない一夜となりました。二次会はパーティールームでのカ

ラオケ大会となりすでに深夜を過ぎていましたがリクエストが途切れることなくO君のスネークダンスのようなものも飛び出しておおいに盛り上がり、最後は部屋に集まって高校時代を語り合い、就寝は一時半頃になりました。普段の立場や役職を忘れて、オレ、オマエと呼び合う昔に戻り、同じ釜の飯を食べた私たちの45年前の、人生の時間の原風景に戻った瞬間を感じました。翌日は朝食後解散となりましたが、有志数名は引き続きゴルフをして、さらに家に帰るようにと川内で村の復興に尽力している久保田稔君から各人に手作り味噌をお土産にいただき、それぞれ帰途につきました。人生の最終章に入ろうとしている私たちにあって、歩む道はそれぞれ異なりますが、あの45年前に共有した時間の確かさは、今なお強固な道標であり豊かな思い出であることを確信しました。富樫先生と西山先生のますますのご健勝を願いつつ、7回生同輩のいよいよこれからの各人の人生が輝き豊かなものでありますように。また、いずれ・・・

幹事：志賀利光、福富大祐



2013年、三回生の同級会が開催されました。会津東山温泉の芦ノ牧グランドホテルで一泊、19名の参加でした。一名は一日間違っ、一日前に来て帰ったそうです。富樫先生とクラス担任の吉田信夫先生が出席されたそうです。以下、三回生北郷さんの感想とコメントです。「まず、富樫先生の元気な事と、吉田先生が、自宅が大熊町の原発から3kmで会津美里に100歳のご両親と共に避難生活をしているとの事で、会津での同級会になりました。同級生で、豊間に両親の介護に来ていた黒沢君が、津波の犠牲になりました。参加者の佐藤敏夫君の読経を、あげ又、吉田先生のお見舞いの挨拶後、開式としました。」「私たちの年齢になると仕事での現役とリタイア組が半々・・・お互い元気に老後を両先生の様に過ごしたいと思いました。」

14回生同級会



2015年1月3日 14回生の新年会を執り行いました。前回から7~8年ぶりの再会です。毎年、集まらなきゃと思ってはいたのですが、中々、行動に移せませんでした。今年、新年会を開いたのは、あるひとりが、「オウ!あれはどこにいるんだ、あれはどうしてんだ。そろそろ、やんねえか?」との話から召集をかけました。40名のクラスの内、14名が集まりました。来年は日にちを調整すればもう少し増えるかもしれません。みんな、それぞれの人生と、それなりのツラになっていました。ツラの仕上がりは大変、味のあるいい仕上がりになっていました。この勢いで「次回は2年後か?」と言ったら、「毎年、ヤッパ!」の一言で、永久幹事の私は、ふたつ返事でやる事にしたのです。なにより、なにより。

勿来工業高等学校 建築科14回生 高原 典宏